# 雨が降ったら、水げんかも水に流してくれる。

田んぼの水の語り部　石﨑洋一さん（まんのう町）

**コーディネーターより**

農業用ため池として日本一大きな満濃池近く、まんのう町真野生まれの石﨑洋一さん。昭和30 年頃までのまんのう町周辺の農作業について、お話を伺いました。香川県は大きな川がなく、古くから水が乏しかったため、限られた水源でいかに全ての田を公平に潤すか、様々な工夫が必要でした。同時に自然の恵みに感謝し、恵みである水をいかに使うか、知恵を出し合い暮らしてきた人々の姿を見ることができます。水の少ない地域だからこそ生まれた、ため池。そこに暮らす人々が生活のためにつくりだしたため池は、今美しい里山の風景を形成しています。ふだんから農作業を手伝うこともある吉田さんは、石﨑さんが語る話に、自分の知識を重ね、真剣に聞き入っていました。

石﨑洋一（いしざきよういち）さん
（昭和17年生まれ・73歳）

×

吉田有希（よしだゆき）さん
（香川県立丸亀高等学校1年）

## 石﨑さんから受け取った言葉

――この地域では昔から満濃池の水を使っていたのですか？　昔の水について教えてください。

満濃池がそこに見えよんですけどね。ここは池から５００メートルぐらい下流。60年くらい前までは、私んとこの地域には満濃池の水は来よらんかったんですわ。私たちの方は、照井川の水を農業用水として先祖代々使っていました。当時の満濃池の貯水量が７８０万トン。第三次の嵩上げ工事で、今と同じ１５４０万トンになった。それで幹線水路ができて、初めて私たちの方へも満濃池の水が来たんです。それが昭和33年なんで、今から57年前のことやな。私んとこの田んぼは、下の方に水路が通っているんですが、そこには満濃池の水が来るんです。でも水路の高さと田んぼの高さには、高低差がありますわな。その段差があるぶん、水が田んぼに入って来なかったんです。

昭和30年は讃岐の大干ばつやったんですわ。そのときにね。農業用水を私らんとこの方言では〝地水〟と呼ぶんですけどな。照井川の地水が私たちの田んぼに入って、それを水稲の用水に使っとったんですけど、讃岐の大干ばつで日照りが続いたら、上の方の人がずんずん水を入れます。そうしたら下流の方に来るまでに水が少なくなってくる。しまいに下流の私のところへは、もう水が全然来ない。田んぼがひどく乾いたらな、稲の葉が巻いてしまうんや。それでは収穫できないから、〝水親〟と呼ばれていた水利の責任者の人に、「順番に水をください」と言って、下流からお願いに行くんです。そうしたら水親が上流の人に「番水（ばんすい）してくれ」と伝えるんです。

――番水？

番水というのは、水が不足した時に、順番に決められた時間だけ水を供給していく方法。それでもな、中には自分の田んぼの水が大事だからと、黙って多く水を盗る人がおる。そこでトラブルが起きるんや。〝水げんか〟というのがな。渇水になったら近所同士が水げんかしてなぁ。そなんしたら、ならもう最後に線香水するか、となる。

――線香水？

これが〝線香水〟に使う線香。だいたいなぁ、1本40分で火が消えてなくなる。水を引き込む時間を決めて、その時間と同じに火が消える線香を用意して、座ってみんな当番しよったんや。線香が消えたら次の田んぼに水を流す。これでどこも同じ量の水が引き込める。それが線香水。昭和30年8月中旬頃の深夜に、土器川で水のことで騒動があったとき、私のとこは線香水しよったんや。線香水の番をしていたとき、夜なのに東の空が光っていて、「土器川の鎮静にあたった人たちの明かりで光っとんや」と周りが話していたのを覚えています。

――昔はそれだけ水にご苦労されたと。

水は天の恵み。どんなに渇水でも、雨が降ってきたら、近所同士の水げんかも何もかも水に流してくれるんや。雨が降ると「線香水ももう疲れたな」「雨が降ったんで、ここで打ち上げせんか！」と、さっきまで水げんかしていた者が寄り合ってな。皆で手打ちうどんをして、お開きにしよったんや。

## 線香が消えたら次の田んぼに水を流す。

1 田んぼを歩きながら昔の話を聞かせてくれた石﨑さん　2 実際の道具を見せながら、一つひとつ丁寧に説明してくれた　3 線香水に使う線香は、こうして定規で測って長さを決めていた　4 線香水の道具一式。線香は風を遮るため、斗桶（とおけ）などに入れて焚く　5 昔の満濃池周辺の写真　6「昔は牛や馬で田んぼを耕しよったん。耕運機もトラクターもないからな。草とりもこうやって人の手でやっりょったんや」

## 参加者の感想

このプロジェクトに参加するまで、里海に対して特別な興味はありませんでした。しかし名人のお話を聞き、自分なりに満濃池について理解を深めていくうちに、自分も里海に影響を与え、里海の恩恵を受けていることに気づき、もっと自分の周りの環境と里海とのつながりについて知りたいと思いました。改めて自分の恵まれた環境を見つめ直すきっかけとなり、里海を大切にしていこうという気持ちになることができました。